

学校評価報告書

学校名 深谷市立明戸小学校

校長名 横田 茂男

1 学校評価のねらい (学校としての受け止め)

学校教育法に基づいて実施するもので、結果に基づき学校運営の改善を図り、教育水準の向上に努めるために実施する。また、学校教育法施行規則を受け、教職員や保護者、関係者の評価を行い、結果を公表するものとする。

目的は以下のとおり。

- (1) 教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図る。
- (2) 教職員や保護者、関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進める。

2 評価の方法 (自己評価・学校関係者評価・第三者評価の別、回数、方法等)

- (1) 教職員及び保護者、児童による評価を年2回(7月、12月)実施する。
- (2) 学校関係者評価は、学校運営協議会委員を対象として、年1回(2月)実施する。
- (3) 評価は、各々が、評価用紙に記名しての回答とする。評価は4段階評価とする他、教職員及び保護者、学校関係者は、改善案等を自由記述の項目を設ける。
- (4) 評価結果を踏まえ、学校では、教職員の代表者による評価検討委員会を7月及び12月に組織し、改善案を検討する。評価結果及び改善案については、保護者へ周知し、理解を求める。

3 評価の結果

(1) 主な指標の変化 ○: 12月が7月より向上 ●: 12月が7月より低下

(例)「学校が好きだという生徒が80%から90%になった」

ア 保護者評価

- 「学校は、子どもに学力がしっかり身につくように指導している。」が、97.8%から98.7%になった。
- 「学校は、便り、ホームページ、連メル等で、教育活動を保護者や地域の方々に積極的に公開している。」が、97.0%から98.7%になった。
- 「学校は子ども達の安全(防犯・事故)に対して取り組んでいる。」が、98.3%から94.7%になった。

- 「お子さんは、『学校が好き』と言っている。」が、99.1%から97.4%になった。

イ 教職員評価

- 「児童に確かな学力が確かな学力が定着している。」が92.9%から100%になった。
- 「児童に、表現力や発表力などが身につくよう指導している。」が、100%から92.3%になった。
- 「児童の体力が向上している。」が、100%から90%になった。

ウ 児童の評価

- 「先生は、まちがったことをしたときは厳しくしかってくれます。」が、97.0%から99.2%になった。
- 「毎日学習しています。」が、95.8%から98.7%になった。
- 「家で、お手伝いや仕事をしています。」が、92.4%から96.2%になった。
- 「自分の意見や考えを発表することができます。」が、93.7%から89.8%になった。

(2) 学校教育目標の具現化に向けた指標

ア「学ぶ力のある子」

(ア)保護者評価

- ・「お子さんは、授業に意欲的に取り組んでいる」 96.9%
- ・「学校は子どもに学力がしっかり身につくように指導している」 98.7%

(イ)教職員評価

- ・「児童に確かな学力が定着している。」 100%
- ・学習規律が定着している。 100%

(ウ)児童の評価

- ・「授業は楽しくわかりやすいです。」 99.2%
- ・「毎日学習しています。」 98.7%

イ「心の豊かな子」

(ア)保護者評価

- ・「お子さんは、友達と仲良く学校生活を送っている。」 98.3%
- ・「学校は、子どもにやさしい思いやりの心が育つように指導している。」 97.3%

(イ)教職員評価

- ・「いじめや問題行動への対処・指導を迅速に行っている。」 100%
- ・「学級活動や集会活動を通し、好ましい人間関係が育ってきている。」 100%
- ・「教育活動を通して道徳教育を実践し、豊かな心が育っている。」 100%

(ウ)児童の評価

- ・「めあてにむかってあきらめずにがんばることができます。」 98.7%
- ・「友だちを助けたり、やさしくしたりできます。」 97.9%

ウ「たくましく生きる子」

(ア)保護者評価

- ・「学校は、子どもの体力づくりのために積極的に取り組んでいる。」 98.7%

(イ)教職員評価

- ・「児童の体力は向上している。」 90%
- ・「保健指導を通して、自己管理ができる児童が育っている。」 100%

(ウ)児童の評価

- ・「マラソンや運動、外遊びなどをして、元気な体づくりに取り組んでいます。」 94.5%

(3) 学校研究課題の具現化に向けた指標

(ア)教職員評価

- ・「教職員としての資質向上に努めている。」 100%
- ・「児童に、表現力や発表力などが身につくよう指導している。」 92.3%
- ・「児童に確かな学力が確かな学力が定着している。」 100%

(ウ)児童の評価

- ・「自分の意見や考えを発表することができます。」 89.8%
- ・「作文を書くのが好きです。」 77.1%

4 次年度に向けての展望

※年度間の変化をみとり考察する

ア 保護者評価では、「児童が授業に意欲的に取り組んでいる」が87.0%(H27.7)から96.9%(H28.12)に伸びている。また、「お子さんは授業がわかりやすいと言っている。」が92.0%から95.2%に向上している。授業の「めあて」や「まとめやふり返し」を毎時間大切にしたり、ICTの活用を積極的に行うなどし、わかりやすい授業を心掛けた成果と考える。今後も深谷市授業スタンダードの徹底を図るなどし、児童の学力向上を図っていく。

イ 保護者評価では、「子どもは、場に応じて礼儀正しい言葉遣いで話している。」が、81.9%から87.7%へ向上しているが、まだ、90%に到達していない。

一方、児童の評価は、「先生や友だちに進んであいさつができます。」が98.2%(H27.7)から97.5%(H28.12)、「礼儀正しい言葉づかいができます。」が93.8%から97.5%と比較的高い数値を示している。

しかし、あいさつや礼儀正しい言葉遣いについては、学校運営協議会の意見交換においても、地域としてあいさつのできる子供たちを育成したいとの意見が出されている。

したがって、PTAや地域と連携して取り組んでいく必要がある。

学校では、教職員が積極的に手本を見せるなどして、言葉の環境を整えていくことも大切である。

ウ 保護者評価では、「学校は、安全（防犯や事故）に対して取り組んでいる。」が、94.9% (H27.7)、94.7% (H28.12) と大きな変化はない。しかし、2 月半ばに発生した学区内での傷害事件報道を受けての自家用車での送迎依頼や職員の登校指導を昨年度比 3 倍にするなどして学校は安全へを指導を強化してる。

また、1 月には不審者の校舎内への侵入を想定しての避難訓練を実施した。これには、深谷警察をはじめ、明戸・豊里・大寄・八基の各駐在所からも協力をいただき、教職員の具体的な動きについても改善すべき点を指摘していただいた。この避難訓練の実施については、学校だよりでも保護者等へ周知した。

児童の安全安心の確保に向けては、学校が事前に想定し、対応すべきことが多いが、全職員で検討を重ね、さらに保護者とも共通理解を重ねていく。

エ 教職員評価で「児童の体力が向上している。」は90% (H28.12)。昨年に同様な評価項目がないが、業前運動等の内容を工夫しながら、児童の体力向上を図る必要がある。

オ 教職員評価「教職員としての資質向上に努めている。」は、昨年度、今年度とも100%であるが、来年度は、校内研修の方法を見直し、より、一人一人が課題意識を持ち、自らが取り組める研修となるように改善を図っていく。